

# 日本国には 福島放射能汚染水を海に流す以外の選択がない



東北大震災を起因としながら、紛れもない人災である福島第1原発事故から12年半が経ちます。

12年半、原発建屋に流入し続けている地下水は放射能汚染水となってたまり続けています。すでに汚染水をためたタンクは、敷地内に置ききれなくなりつつあるという理由で、政府はこれを海洋に放出すると決めました。7月下旬にはIAEA＝国際原子力機構が「(放出は)人及び環境に対し、無視できるほどの放射線影響となる」との報告を發し、日本政府は国際機関の權威をかざして、今にも汚染水の放出を始めようとしています。

しかし、「処理水」はトリチウムという核種を含み、放出は何十年も続きます。何十年、百年先の結果責任を誰が負うのでしょうか。

地下水の流入は止められないのか。汚染水の保管方法はないのか。人々の危惧や反対は風評なのか。原発を止めるために原子力の研究を続ける科学者・小出裕章さんと考えます。

2023年9月10日(日) 午後2時～4時半

● 長野市ふれあい福祉センター 4-3

市庁舎・長野芸術館の道を隔てて東隣

● 講師: 小出裕章さん

工学者(原子核工学)。元京都大学原子炉実験所助教。専門は放射線計測、原子安全。

著書は「原発のウソ」「原発はいらない」「この国は原発事故から何を学んだのか」「原発と戦争を押し進める愚かな国、日本」「原発事故は終わっていない」他多数。2015年より長野県松本市在住。

● 参加費(資料代)500円

戦争しない! させない! 共同行動ながの

090-1654-5378 (岡崎)